

令和 8 年度第 1 回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
上野地域部会 議事概要

■開催日時 令和 8 年 7 月 2 日（木）
午後 7 時 0 0 分～午後 8 時 3 0 分

■開催場所 市役所本庁舎 4 階 4 0 6 会議室

■出席者（敬称略）

【部会員】

山根 政広	中瀬地域住民自治協議会
池本 孝	三田地区住民自治協議会
松生 龍治	上野西部地区住民自治協議会
生間 慎二郎	社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会 地域支援課 課長
北岡 憲次	伊賀市民生委員児童委員協議会
中浦 順一郎	一般社団法人伊賀上野観光協会

【事務局】

公共交通課	森地課長、中川係長、岡本
上野支所	古川支所長

■欠席者（敬称略）

【部会員】

中村 明良	古山地区住民自治協議会
宮本 盛文	比自岐地区住民自治協議会
三山 悦史	上野商工会議所

■傍聴人：0 人

■会議概要

1. 開会

2. 協議事項

（1）伊賀市地域公共交通計画中間案について

事務局から資料 1－1 資料 1－2 資料 1－3 に基づき、説明。

【質疑応答】

部会員	パブリックコメントの募集について募集期間が 6 月 1 日～7 月 9 日になっていますが、現在どのような状況でしょうか。
事務局	現在 7 名の方に 3 0 項目程度のご意見をいただいております。

	6月28日、29日にハイトピア1階でオープンハウスをさせていただき、通りがかりの方に交通計画の説明をさせていただきました。28日日曜日は31人、29日月曜日が37人で、合計68人の方にご意見をいただきました。日曜日では、観光客の方や市外の方が多かったですが、月曜日午前中はお年寄りの方が多く80代、90代の方が1人でバスを利用されている方がいました。午後からは高校生がテスト期間中だったこともあり、高校生の意見を聞くことができました。 計画としましては市全体のものでもあり、さらに10年間という長い期間ですので具体的な事業というよりも、理念や方針がメインで、資料編も別にあり、180ページぐらいあるようなものになります。各地域の利用状況や細かいことも載っていますが、普段から気にしていただいている方でないと全体の構成についての意見は言いにくいということもあります。
部会員	現実的に、車を利用している方がほとんどですので、JRや近鉄電車を利用することはあまりないです。民生委員の立場から申し上げますと、お年寄りの方が多いので、その方たちが買い物、通院に行くにも、市街地にあったショッピングセンターも市役所も移設してしまい何もないので閑散としております。実際お年寄りの方に買い物はどこに行けばよいのか聞かれるのですが、小さな小売り店も閉鎖しているのが現状で、毎日の食品が気軽に購入できない状況があるかと思います。買い物バスを利用している方がほんの一部の方だけですので、それ以外の方は、どこに買い物に行かれているのだろうと心配しております。市街地で言うと普段の通院や毎日の買い物時の公共交通をいかに便利にしていけるのかが気になります。
事務局	伊賀も車社会になっており、国自体もマイカー依存が行き過ぎていきますので、公共交通を使ってもらうようシフトチェンジをしていこうとしているところです。現時点で、車を運転されている方は、公共交通を利用する機会がほとんどありません。交通弱者と呼ばれる方に公共交通を利用していただきたいと考えています。利用していただく用途としましては高齢者の方は通院やお買い物、学生の通学が3本柱みたいになっているのかと考えています。
部会員	市街地と田舎の方では環境が違うと思います。
事務局	違います。1つ大きな話で、公共交通自体は上野市駅をハブにして、そこへ公共交通を集めてくるような作りで、そこに来れば乗り継いで、広く何処にでも行けるようなネットワークを作っていく形でしておりますが、一方で、上野市駅へ行ったとしても、昔は上野市駅の周りには様々な施設があったので何とかなりました。

	が、今は施設が少ないので何もできないというお声が多くあります。交通だけで解決するのは難しいので、伊賀市全体で中心市街地課等と一緒に考えていかないといけないと思っております。
部会員	伊賀鉄道は以前から赤字路線で、廃線になれば通学で利用している学生達が困りますが、赤字路線を伊賀市の予算を使い続け運営していくのはどうなのかと思います。廃止をすれば困る方が居るので、その代わりになる交通手段はないかと思いますが、それはどうですか。
事務局	計画を見ていただくと、伊賀鉄道をしっかり維持していきましょうというコンセプトで進んでおりますが、勿論、上野西部も伊賀線活性化協議会に加入いただいて一緒に盛り上げていただくところもありますが、たちまち伊賀鉄道を廃止にした場合、受け入れの代替手段は今のところはありません。バス自体も運転士不足で、電車の利用をバスで補うというのは、まず無理になってきております。また、伊賀鉄道があることでＪＲ、近鉄電車も連動しておりますので、今の利用者の方もですし、伊賀市全体のまちづくりのためにも必要なものですので、この計画の中でも伊賀鉄道をしっかり残し、もっと利用していただける、もっと役立てて行けるように、みんなで進めていきましょうというような方向性を示しています。やはり、年間100万人を超える利用人数があります。特に朝は、まとまって利用がありますので、それを他の方法で代替するのは難しいです。また、伊賀鉄道自体については、観光資源で外から人を呼ぶ役割を果たせているとも考えています。
部会員	持続方向であれば、赤字を少なくするために、伊賀市は観光に来ていただき、儲かるような方向性を考えるということが大事であると思います。以前も関西線で観光列車のはなあかりを走らせたり、その様なのも１つ方法ですし、他にも色々観光客に来ていただける手立てが必要ですね。
事務局	はい。伊賀鉄道自体も観光的な列車や企画列車は今も実施しており、これからもさらに広げていきたいと考えています。特に鉄道事業の大手は不動産業や別の事業も抱えていますけれども、地方鉄道では、約90%が赤字です。今までは単純に同じ事業者同士がライバルという関係性でしたが、今は交通事業者同士が手を組んで相乗効果で守っていこうとしています。伊賀鉄道だけではなく、ＪＲ、近鉄電車とも連携したなかで、観光客を呼ぶ取り組みがどんどん増えてきております。観光協会の方にも来ていただいておりますが、伊賀線活性化協議会でも観光部門に入っておりますし、伊賀忍者や松尾芭蕉、沢山の観光資源があるのでそ

	ういったものを利用して、たくさんの方に観光に来ていただきたいと思います。日常的な利用を増やすことと、外から呼んでくることの両方を進めて利用者をたくさん増やしていくことがこの計画の中で書いてあるところです。
部会員	来てくれる方のほとんどが車で来られますから、その時に鉄道を利用してもらえるようにしていかないと、いつまでも赤字路線になってしまいます。
事務局	ローカル鉄道の90%が赤字で、これから黒字転換はかなり難しいと思います。これまで観光について、来ていただいた先の事は、力を入れて取り組んでいましたが、どうやって来ていただくかといった手段までは、伊賀市として考えられていませんでしたので、来ていただく方法も含めて考えていけるように、我々交通分野と観光分野で連携していく必要があると考えています。
部会員	新しい図書館や万川集海もでき、以前に市長に言いましたが、ふれあいプラザ後の利活用を何とかしていただきたいと言いました。それに、買い物ができる、飲食ができる大きな施設が、あの周辺に必要なだと思っています。
事務局	それは、また別に進めていく話で、昨年度JRで観光列車を実施した際に、伊賀鉄道で上野市駅へ来ていただいた後、街中を歩いていただくような仕組みにしたのですが、休んでいる店が多かったこともありました。そういう点では、改善すべき点も出てきましたので、交通だけではなく、観光客に来てもらう町にすることなら、全体を含めて受け入れ態勢を考えていき、それで初めて、利用増進につながると思います。ですので、来訪客用の利用、日常の利用といった両方の目的で公共交通をしっかり作り上げていこうと考えております。
部会員	伊賀鉄道を利用された方にチケットを渡し、市内お店で利用していただいたら1割、2割引きで利用していただけるといった観光客にメリットがある方法はあるのですか。
事務局	あります。チケットもデジタル化が進んでおり、デジタルで購入していただいた中に、クーポンがセットになった物がございます。
部会員	ハイトピア前でオープンハウスをされた時、午前中はご高齢者、午後は学生さんをターゲットにした何かプランみたいなものがあれば良かったと思います。例えば、乗って欲しい、やって欲しいと言われるものを作り、それを目指して何か目標を立てられたら、良いのではと思います。
事務局	オープンハウスで聞かせていただいた96歳、88歳の方がとても活発に話をしてくれました。その方たちは、こどもたちから送迎をしてあげると言われても断るそうです。自分でルートを調べ自分

	で歩いて移動するのが健康の秘訣だと言っていました。やはり、ドアツードアも楽ですが、出来る方は健康のために公共交通を利用しますし、しっかりアピールもしていく必要があると思っています。伊賀市でも健康福祉の部門や社協には、宣伝していきやすいところかなと思います。
部会員	以前、こどもたちがバスの乗り方がわからないということで、バスに乗る体験をして、その時に何かのメリットがあれば良いのにといった話がありました。何が良いかは分かりませんが、先日防災キャンプをして、その時もマッチやライターを知らない子や使い方を知らない子がたくさんいました。でも、それを教えてあげるのは大人です。面白そうなイベントを開催しそこで教えてあげ、イベントに参加するのにバスに乗って来てもらい、その時にこどもたちにプレゼントを渡すといった取り組みをしても良いのかなと思います。
事務局	乗り方教室については年間に何回かの実施で、人数的なものもあり、あまり広まっていません。しかし、この計画で小中高校生のモビリティマネージメント、いわゆるマイカー依存ではなく公共交通を賢く利用していただく、自ら公共交通を使いたい時にうまく使うように促していく教育を進めていこうということも書いていますので、すぐに効果はないかもしれませんが、その辺も時間をかけて、教育しながら、取り組みをしていきたいと思います。
部会員	名古屋に親戚がおり、この間名古屋に行ってきたのですが、こどもたちはよくバスに乗りどこかに行きます。一体どこに行ってるのかと思って聞くと、名古屋球場に行ったり、お買い物に行ったり、お友達の家に行ったりしていますが、バスに乗る習慣がついているというのが大きいと思います。
事務局	あまり小さなこどもには薦められませんが、ある程度のこどもには自分の力で、乗り継いで行けばどこでも行けるという事を知ってもらえたら、そのこどもたちにとっても世界が広がっていくと思いますし、学校と連携をして進めていく分野だと思います。 去年、青山小学校でバスの乗り方教室をしましたが、やはりバスの乗り方を知らないため、まずは知ってもらうことからだと考えています。普段学校に通うのに、バスには乗っていますが、席が決まっているような貸し切りバスのもので多いかと思います。路線バスの場合のお金の支払い方や乗降場所、時間、乗るときにどのようにすればよいのかを全く知らない方が多いので、これから広めていき将来バスを使ってもらえるような環境づくりを考えていけたらと思います。課題は山積みですが、各地区で地域福祉ネットワーク会議を開催していただいてと思います。そのなか

	で、移動が課題として多く出ているかと思いますので、各地域の課題解決のために福祉の分野だけではなく、交通の分野と連携しながら、進めていく必要があるという認識はあります。
部会員	市街地は以前と比べたら閑散としておりますが、それ以上に市街地以外の島ヶ原、伊賀、阿山、大山田、青山などは市街地以上に買い物等々が大変困るのではないかと思います。買い物バスの利用はされています。また、買い物で回るバスも計画して実施しております、それはそれで良いと思いますが、伊賀市の中心部以外より、さらにお年寄りの方も困っているのかなと思います。
事務局	お買い物バスは伊賀市内を走っている地域が多くあり、中心市街地よりも外側の地域の方がバスも少ないですし課題も多い分野だと思います。島ヶ原のようにまちづくり協議会でバスを走らせる取り組みで課題を解決をしようとされている地域もあります。お買い物バスを呼んできて解決をされる地域もあるので、地域と地域の福祉、交通というのを考えながら、解決をしていく必要があると思います。交通の中でも地域の細かい移動もですが、先程から話が出ておりました伊賀鉄道やＪＲ関西線、近鉄電車の部分については、地域で解決というのは無理な話ですので、その辺りは伊賀市がしっかりと現状を維持し、何とか移動ができるような形を残していくのも大事かと考えています。現状、どこの地域も、買い物、通勤は困っていないという地域は少ないというのが現状です。
部会員	これから益々高齢化社会になっていくと思います。
事務局	福祉サービスを受けられる方はそちらの分野で自分のニーズを解決する、車に乗れる方は車で行く、その中間におられる方は、やはり方法が限られてきますので、そのような方に利用していただくための公共交通を作っていく必要があると思います。
部会員	地域部会は島ヶ原、伊賀、阿山、大山田、青山でもするのですか。
事務局	いわゆる市役所の各支所単位です。合併前の旧市町村単位でそれぞれ開催します。各地域によって課題も様々です。
部会員	伊賀鉄道、ＪＲ関西線の会議というのがありますが、そちらも事務局の皆様は出席されるのですか。
事務局	出席いたします。伊賀鉄道については、まちづくり協議会、企業、色々な方が加入されている団体があり、普段から伊賀鉄道の利用促進に向けて取り組んでくれています。
部会員	関西線の会議は７月に実施予定ですか。
事務局	はい。関西線の会議は事務局で出席しており、JR関西本線利用促進と電化を進める会といった団体です。そちらは、どうやって利用促進をしていこうかというような話し合いをしております。鉄

	道も利用者が減っていたところに新型コロナが流行し、密にならないようにということもあり利用者が減りました。伊賀にあった企業の事務所も減りましたので、通勤で利用されていた方もかなり減ってしまい、様々な悪条件が重なり、採算だけで見るとかなり落ちました。だからといって無くしてしまうと利用推進をどのようにしていくかといった課題もありますので、それぞれの団体の検討しているところです。
部会員	関西線の列車で、「はなあかり」を見ましたが、あれも関西線の利用促進ですか。
事務局	その列車についてはまた別の団体が三重県が入っているものになります。「はなあかり」を走らせるにあたり、地元としてのお出迎えの取り組みをさせていただきました。
部会員	伊賀鉄道は花火の日に「花火列車」を運行するようですが、それは伊賀鉄道が主催ですか。
事務局	はい。伊賀鉄道が主催で我々も協力という形で実施しています。企画列車自体も伊賀鉄道が行っています。
部会員	協議会に出席して初めて中間案を知りましたが、１０年、２０年の計画をしている事自体をほとんどの市民の方は知らないと思います。それに、パブリックコメントを実施していることを知らない方が多いと思います。
事務局	市としては広報媒体で広く周知を行っておりますが、数ある中の一つですので、普段から興味のある方でないと見に行かないと思います。そして、パブリックコメントも現時点で７名の方に３０個程度の意見をいただいておりますが、やはり普段から気にかけてくださっている方の意見が多く、１人当たりのご意見量が多い印象です。実際このような形でご協議いただいて、完成した後は広く周知していくことが大事で、また計画の中身を周知、宣伝をしていく必要があると思います。
部会員	伊賀市の教育関係で、伊賀市の高校は合併で学校の数が減っていきます。また、将来逆に外に出ていき、入ってくることもたちの数も少なくなる可能性が出てくると思います。そのあたりも危惧していかないと伊賀鉄道の運営も難しくなると考えています。
事務局	伊賀市全体としにしても、総合計画や都市マスタープランがありますが、この計画自体、人口減少傾向にある前提の基で考えております。それとはまた別に伊賀鉄道自体の１０年間の計画を作っています。それにも、高校生の減少、観光客の推移を出しながら将来のボリューム感を考えた計画で進めておりますが、やはり、かなり厳しい試算になっているのが現状です。伊賀鉄道だけで言いますと、現行の利用者数よりもさらに下がっていく試算にはなりますし、逆にかかる費用は上がっていきます。物価上昇や人件

	費上昇もありますので増えていく試算は出ております。それでも、やはり、代わるものがないので残す。残すからには、利用者を増やしていくというところで進めていく必要があると考えています。
--	--

3. その他

- (1) 行政バス「リ・デザイン」幸せな暮らしプロジェクトについて
事務局から行政バス「リ・デザイン」幸せな暮らしプロジェクトに基づき、説明。

【質疑応答】

なし

- (2) RYDEPASSについて
事務局からRYDEPASSチラシに基づき、説明

【質疑応答】

なし

(終了)